

会 報 <第406号>

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



発行日 令和 元年 8月 1日

<目 次>

- I 月例会報告 第 476 回月例会(令和元年 7 月) ……2～7頁
『豊岡の挑戦—Local & Global City—』
兵庫県豊岡市長 中貝 宗治氏
開催日時 令和元年 7 月 11 日(木) 12 時から 14 時
会 場 神戸三宮東急REIホテル
- はじめに ……2頁
1 受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ ……3頁
2 芸術文化を創造し、発信する ……4頁
3 環境都市「豊岡エコバレー」を実現する ……5頁
4 「小さな世界都市」市民を育てる ……5頁
おわりに、Q & A ……6～7頁
- II 寄 稿 神戸秘話第24回(最終回) ……8頁
『原点は六甲山の自然 植物学者 岡村 はた』
(一社)兵庫県建築会 会 長 瀬戸本 淳
- III 見学レポート ぶらりまち歩き 『西国街道と兵庫津』 ……9～10 頁
(5)七宮神社～柳原惣門、西出町
(株)岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏、事務局
- IV 花だより ヤマモモ、ヤブカンゾウ(国営明石海峡公園神戸地区;あいな里山公園) ……10～11 頁
- V お知らせ 行事案内、事務局だより ……11～12 頁
広報コーナー(兵庫県住宅再建共済制度)

今月の花だより：ヤマモモ、ヤブカンゾウ (神戸市北区山田町藍那)



I 第476回月例会報告（令和元年7月） 『豊岡の挑戦—Local & Global City—』 兵庫県 豊岡市長 中貝 宗治氏

◎ 開催挨拶

（一社）兵庫県建築会 会長 瀬戸本 淳



皆さん、こんにちは。

お忙しい中、足元の悪い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

中貝市長様にも、公務ご多忙の中、私どものために駆けつけてくださりまして本当にありがとうございます。

兵庫県建築会は、私と同じ年で、72歳でございますが、兵庫県のつくってくれた会で、まちづくりやら、建築、文化発展のために、官民のヒューマンネットワークを大切に活動しております。

先ほど話がありましたが、豊岡市は、兵庫県で一番面積が大きい市で、私どもも年に何回も遊びには行かせてもらっています。中貝市長は、「豊岡は日本の未来だ」とか、「小さな世界都市を目指す」、そして、若い女性が戻ってきてもらわないと困るため「若い女性に自信を持って帰ってきて欲しいと言える市を目指す」とかおっしゃっています。

アーティストやら、クリエイターの人々もやってきたり、移住したり、何か幸せなまちのイメージが私たちにも伝わってきております。とにかくまちの中に優しさと思いやりがいっぱい溢れているというイメージを私どもは持っております。

本日は、まことに短い時間でございますけれども、そのような市長のお話を一心に聞かせていただきたいと思います。本当にありがとうございます。



◎ 講演



はじめに

今日は貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。豊岡の取り組みが少しでも皆様のご参考になればと願っております。

豊岡は、兵庫県の北部、日本海に面したまちで、2005年に1市5町が合併して、今の「豊岡市」となりました。

○ 地方創生＝人口減少対策

日本の自治体最大の課題は地方創生で、これは厳密には人口減少対策であり、東京圏以外は、基本的に人口減少が進んでいる。

合計特殊出生率の数値は、東京は1.21人、豊岡は1.82人（2008-2012）で、その差0.61とは、東京から日本中の1.82人のまちに若い女性が100万人移住すれば、それだけで日本の子どもが61万人増えるという数値である。逆の場合は、日本の子どもが61万人減ることになる。

今は、毎年10万人以上が東京圏に吸い取られており、地方創生というのは、圧倒的に不利な闘いと言える。豊岡の場合、何もしなければ2015年の8万2,000人が、2040年には5万7,600人に減り、それを和らげるため、目標値を6万2,000人と定めている。これが豊岡の地方創生であり、それでも2万人が減る。

○ 地方定住への工夫

人口は減少しても元気なまちをつくろうという量的緩和と質的展開の2階立ての作戦構造が、全国の自治体が実施する地方創生である。

豊岡では、特に高校卒業時に9割の若者が豊岡を離れ、大学卒業時を中心に帰ってくるものの、10歳代で失われた人口の約4割に過ぎない。

実のところ、夫婦一組あたりの子どもの数は、

この30年間じわりと右肩上がりが増えていく。一方で夫婦の絶対数の減り方が大きいと、少子化が発生し、その子達が高校を卒業すると先述のパターンの繰り返しとなり、豊岡の人口減少が進んでいく。

社会的・経済的・文化的に「貧しい地方」と「豊かな都市」という強烈なイメージがあり、地方に帰ることが躊躇される。

高校卒業時の減を大学卒業時に取り返す工夫が必要である。



○で囲まれた部分：10代で大きくマイナスになり、20代で戻り切れていない

○ 小さな世界都市

地方で、豊岡で暮らすことの価値を創造する必要がある、掲げた旗印が「小さな世界都市」である。

世界都市はGlobal Cityだが、それを「小さな=Small」ではなく、「小さな=Local」と訳した。世界で輝くことを通じ、自分たちの誇りに繋げようとする考え方である。

○ 世界に通用するローカルを磨く

グローバル化の進展で、世界は文化的にはつまらなくなり、逆に言えば、ローカルであること、地域固有であることが世界で輝くチャンスに繋がる。

世界に通用するローカルを磨く必要があると考えている。

そのうちの「小さな世界都市」をつくるための4つの柱についてお話をしたい。

1 受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ

○ 円山川

円山川は、下流部はほとんど流れがなくボートに最適で、日本チームはオリンピックに向け3年連続で強化合宿に来ている。

さらに、世界ランキング1位のドイツチームの事前合宿が決定し、城崎温泉に宿泊しオリンピック

クに臨まれる。豊岡はスポンサー契約をし、「KINOSAKI TOYOOKA, JAPAN」と書いたウェアを2年間着て貰うこととした。スイスも希望している。

○ 出石

国の重要伝統的建造物群の保存地区に指定され、そば屋が37軒もあり、そばだけで年間60万人前後の入込がある。

明治9年の大火で一旦中心市街地の3分の2が消失したが、町の人達は、道路や堀の町割りをそのまま残し、町屋を再建した。

また、積極的に昔を取り戻す取組みをし、10年かけて50軒を改修し、黙々と出石の風情をつくり上げている。

○ 城崎温泉

城崎は、1925年に北但大震災で灰塵に帰した。当時から木造3階建ての旅館街で、復興のコンセプトは「もどに戻す」こと。兵庫県の洋風建築案を撤回させ、木造3階建ての旅館街が復活した。

わずか3,500人ほどの地域に63万人（2017年）の宿泊客があり、この日本の情緒にひかれ、インバウンドが急増し昨年4万4,000人、6年間で40倍になった。



城崎：復興時の配置された防災用建築物

○ DMO

世界へのアピールも積極的に行っており、豊岡市が関係するDMO（※観光地域づくりの舵取り役を担う法人）が、昨年度アテンド、アレンジしたものが128件で2億5,000万人に豊岡の情報が届いたという計算をしている。

ニューヨーク、パリ、シドニーにある「レップ」

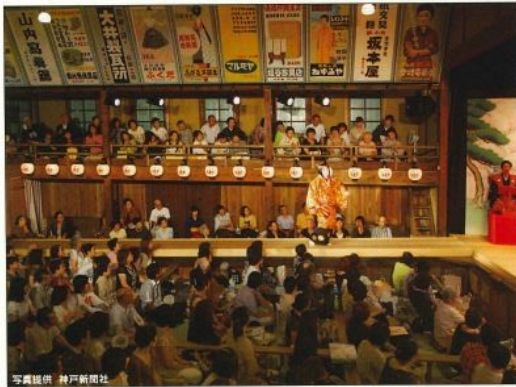
（※Rep-representativeの略：代理人、代弁者、販売員）といわれる会社と契約し、豊岡の代理人としてそれぞれの国のメディアに情報発信をし、メディアへの掲載や豊岡への取材を促している。タイの訪日客が急増しているが、豊岡のDMOにはタイ語に堪能の女性が配置され、同国の豊岡の取扱いは上位となっている。

私達は、このような世界へのアピールに努力を続けている。

2 芸術文化を創造し、発信する

○ 出石：永楽館

出石には1901年につくられた近畿に現存する最古の芝居小屋がある。豊岡市が譲り受け、2008年に芝居小屋として復活した。歌舞伎の片岡愛之助が座頭として12年連続で来演し、今年も11月4日から1週間歌舞伎の公演が行われる。アメリカ、イタリアなど海外からの来客もある。



出石：永楽館公演風景

○ 城崎・アーティスト・イン・レジデンス

県立の大会議館という古いホールを事情があり豊岡市が譲り受け、2014年、「城崎国際アートセンター」としてオープンした。日本最大のアーティスト・イン・レジデンスで、滞在制作の拠点となっている。

最高3カ月まで、宿泊施設、稽古場、ホールを使うのは無料。24時間ぶっ通しで作品をつくることができる。

○ 芸術監督・平田オリザ氏

平田オリザ氏は、日本を代表する劇作家であるが、設立の経緯もありアートセンターの芸術監督に就任いただいた。

このアーティスト・イン・レジデンスに、世界中から一流のアーティストが続々やってきている。今年度は、世界20カ国、68の団体から応募があり、8カ国、20団体に絞り込みお貸しする。

その芸術監督の平田オリザ氏は豊岡に移住され、さらに、来年度には平田氏の日本有数の劇団「青年団」が、本拠を東京から豊岡に移し、「江原河畔劇場」が開館の運びとなる。

○ 国際観光芸術専門職大学

県立の「(仮称)国際観光芸術専門職大学」が2021年の開学を目指している。

演劇、ダンス、観光を学ぶ4年制の大学で、定数320人。学長は、平田オリザ氏が、講師陣には演劇とダンスの世界で非常に優れた方が就任予定で、日本中、世界中から学生が来るものと期待している。



城崎：城崎国際アートセンターと平田オリザ氏

プロモーションビデオにおける平田氏の発言

- 海外から来た人たちは、先ず城崎の街並みに驚く。世界中に例がないから。
- (劇団に無料で貸すことに) 城崎全体で若いアーティストに滞在してもらい、その中で21世紀の「城崎にて」が生まれればすごいこと。
- 最先端のアートに触れて貰うことにより感性を磨く。アーティストが街に出ていくことで、まちの新しい見せ方を発見してもらおう。そのまちが益々活性化する。
- 地域のポテンシャルを全面展開してプロデュースすればこれだけのアートのスペースができることを世界に示した。

○ 豊岡演劇祭

このように条件が整ってきたため、来年から、「豊岡演劇祭」一国際演劇祭を開催することにした。今年は、「第ゼロ回」と称し、3日間だけやってみて課題を洗い出す。将来的には1か月間ぐらい豊岡を演劇だらけ音楽だらけのまちにしたい。KDDI、JAL、トヨタが協賛企業で、来年度以降はさらに大企業に働きかけていきたい。

○ 非認知スキル

演劇ワークショップによる非認知スキルの向上を目指している。

「非認知スキル」とは、「グリット(やり抜く力)」、我慢する力、押さえる力などいろいろの力があり、これが非常に重要だとわかってきた。因みに「認知スキル」とは学力、IQのように数値で表せるもの。

この「非認知スキル」は幼児期、小学校低学年時に原形が決まり、非常に重要な時期と言われる。そのためには、演劇、ダンスのような表現力を養うものが効果的と言われている。豊岡では今秋からモデル校2校をつくり、専門家のチェックを受け、効果を検証したうえで、全小学校に展開したい。現在、全ての公立の小学校6年生と中学校1年生では、授業に演劇を取り入れ、表現力、コミュニケーション能力に繋げている。

私たちは、豊岡を深さをもった「演劇のまち」にし、世界で圧倒的に輝いていきたいと考えている。

3 環境都市「豊岡エコバレー」を実現する

○ コウノトリ育む農法



環境問題で突き抜けることにより世界で輝くことができるという考え方である。

そのシンボルがコウノトリで、豊岡では、飼育94羽、野外120羽が再び自由に空を飛び、他にも野田市、越前市で放鳥され、全国で158羽となった。

コウノトリを、最後に絶滅に迫りやっったのは農薬であり、「コウノトリ育む農法」とは、農薬を使わず生き物を育み、その生き物がお米を育むという農法である。

作付けは確実に増え、昨年は418.8haで、内142.6haが完全無農薬、その他も80%減農薬で、販売は好調である。最大の消費地は沖縄である。

アメリカ、香港、ドバイ、シンガポール、オーストラリアへ輸出もしており、今は17トン程度だが、市の職員が昨年1カ月間かけて世界をセールスに回り普及に努めている。

○ 取り戻すべきもの

農業に頼らない農法の拡がりの中、経済を敵に回さず、環境と経済を共鳴させる仕組みを作ろうとしている。

1960年に撮られた出石川の写真には、農家の女性と但馬牛7頭、コウノトリ12羽が並んで写っている。2017年同じ場所の写真にはコウノトリは居るが女性と牛の姿はなく、ここまでしか戻っていないということになる。

往時を知る古老の語る昔の姿とは次のとおり。

コウノトリ飼育員の松島興治郎氏

「昔は、川の水より魚のほうが多かった」

2002年:コウノトリの郷公園研究者によるインタビューより

「魚が真っ黒になるほどおった」

「起こすごとにドジョウがうわっと、じゅわーとおった」

「コイが拾って歩けるんでっせ」

「祟りがあるほど捕りました」

豊岡市民のアンケートでは、コウノトリの野生復帰に関しては、「よくやった」と満足度がすごく高いが、野生復帰を果たした中、これからの重要度では「もうよかろう」となる。

しかし、写真や証言の世界は戻っていない。あのころは、心が本当に豊かだった。私たちは何を失ってきたのか、何を取り戻そうとしているのか、次の果てしない目的となる。

4 「小さな世界都市」市民を育てる

○ つながりの中に自分がある



コウノトリを巡る様々な取り組みにより、田んぼにカエル、ドジョウ、フナなどいろんな生き物が帰り、そしてコウノトリも帰ってきた。何よりの誇りは、子ども達がまた田んぼの中に帰ってきたこと。

この農法を広げるため、子ども達は素晴らしい結論にたどり着く。それは消費を増やすということだった。

学校近くのコンビニに対するコウノトリ育む農法の必要性の説明とそのお米を使ったおにぎり販売の依頼を経て、次に、学校給食への採用を目指し、市長室にやってきた。その行動力と論理の確かさには驚く。

子ども達と約束し、少しずつ増やしていき、経費をふるさと納税で補てんしながら、2016年から週5日、学校給食は全てコウノトリ米にした。

また、豊岡市内の「青空市場」での販売では、事前に記者発表をし、市民注目の中、お米の完売に結びつけた。何としたたかな子ども達か。

この子ども達の1年後の活動報告のタイトルが、「つながりの中に自分がある」(新田プロジェクトE) 実に見事な認識だ。

イスラエルのラン・レヴィー・ヤマモリ氏はこの子供達の取組に感動し、それをテーマに30分のドキュメンタリー映画「コウノトリ」を作り、世界中で上映し共感の連鎖が広がっている。

○ 共感の連鎖

14の小学校の代表が集まり、このお米を東日本に送ろうとなり、送り先の相談に、またもや市長室にやってきた。震災発生以来、市の職員を派遣し続けている南三陸町を提案し、児童一人当たり4合プレゼントできることもわかった。

経費は、運送料や袋代で合計13万円かかるが、子ども達に努力を促し、募金活動や空き缶収集で11万7,000円が集められた。

収穫されたお米が、子ども達の拍手と万歳の中で出発し、そして豊岡の子ども達一人々のメッセージとともに、南三陸町の児童一人々に無事手渡された。

考えることと行動することの間には深く広い溝があるが、この子ども達は、軽々とその溝を超えてくれた。私たちは、この子ども達を本当に誇りに思っている。

○ ローカル&グローバルコミュニケーション教育

・ 3つの柱により取組んでいる。

1つは、ふるさと教育。

自分達のまちを知り、ふるさとへの愛着に繋がっていかうとするもの。

2つ目は、英語。

幼稚園などの幼児教育機関に英語の指導者を派遣し、オールイングリッシュで遊びながら英語に馴染んでもらっている。小学校からは外国人のALT、指導助手を入れ、小学校1年生から中学校まで一貫して英語を学び、遊びからだんだん学びへもっていく。

3つ目は、演劇。

演劇を自分達がつくり、演じることを通じて、コミュニケーション能力につなげていく。

・ 高校教育への導入

県教委や学校にお願いし、豊岡総合高校に地域国際系列・ローカル&グローバルの系列をつくってもらった。この系列から、毎年10人前後が、カナダの英語キャンプに参加し、滞在費、学費は豊岡市が負担する制度をつくった。これは、ローカル&グローバル人材を育てるのが目的である。

これからこの子たちが住む豊岡や地方を、世界に開くことができる人材を育てようというのが、このローカル&グローバルコミュニケーション教育の柱である。



おわりに

いろいろとお話をしてきましたが、おさらいとしてローカル&グローバルのプロモーション映像を最後にご覧ください。

プロモーション映像のナレーション (主なもの)

- 豊かな暮らしと仕事のやりがいがあるどこに居ても両立できる今、ローカルがむしろチャンス
- 近畿最古の芝居小屋を復活、歌舞伎をまちの顔にした人たち
日本一のカパンを世界一にすべく学校まで作ってしまった人たち
コウノトリの野生復帰を実現、生き物を育む新しい農法を拓いた人たち
- 世界中からアーティストを呼び込み、老舗の温泉街をパフォーミングアートの拠点に変えてしまったり
公立の小学校で最先端のコミュニケーション教育を実現してみたり

私たちはここにしかない地域の資源を生かして新しい価値を生み出していく

ローカルをつき進めた先にはグローバルがあると信じている私たちに会いにきてください。

飛んでるローカル豊岡

どうもご静聴ありがとうございました。(拍手)



共感の連鎖：コウノトリ米を贈るための子供達による会議

◎ 謝 辞

(一社) 兵庫県建築会 副会長 山本 康一郎



本日は、貴重なお話を1時間という限られた時間の中で我々に聞かせていただきまして、ありがとうございます。

環境との共生、地域創生といった言葉は、何処のまちでも使っているわけですが、豊岡市の場合、市長がリーダーシップをとられて、先頭に立って、その具体策を実践されているということが本当によくわかりました。

神戸から2時間と随分近くなりました。

豊岡市が今後ますますご発展されることを祈念いたしまして、本日のお礼のあいさつとさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。



◎ 質疑応答

講演の質疑応答は次のとおりで、市長にはお疲れのところご丁寧にご回答をいただきました。

Q アーティストとのコラボの仕方について

A「アーティスト・クリエイター移住等促進戦略」を作り、移住者の要請があれば、住居や仕事のお世話をする部署を設けてサポートしている。

「ミュージシャン・イン・レジデンス」も始め、既に有名グループが来て曲を作り発表し、豊岡をPRしてくれている。

「地域おこし協力隊」制度があり、例えば平田氏の劇団員の場合、その制度により、一定の報酬と活動費の支給により移住の促進になる。

Q 地方創生に対する国への要望について

A 日本全体の人口減少対策を地方創生でやるものだが、豊岡の人口減少イコール日本の人口減少であり、日本全体としての人口減少の緩和対策が大事。

東京23区から地方への移住者に最高200万円出す制度ができたが、2億円もかけてたった100人への対策であり、空疎な施策である。一つ々のまちをどう元気にするか、国は謙虚に地方と向き合う必要がある。

Q 舞台芸術着目のきっかけとは

A「永楽館」の復活が基礎となった。復活のこけら落としを歌舞伎でやり、大好評で舞台芸術の良さを知った。また、その期間の暮らしの豊かさを感じた。

次に、県立の大会議館を引き取り、使い道に困っていた。年間利用日数は20日。

ふと劇団の経営の苦しさが思い付きタダであれば来るのではないかと思いついた。それは永楽館のことがあったから。また、阪神・淡路大震災では、音楽、演劇とか心に響くものも大切だと知った。

劇団がくれば、ホールは永遠に赤字だがそれがまちのブランド価値を高めることになり、観光客が増えれば年間2,000万円の経費は、1,000人の宿泊でカバーできると

制度化に悩んでいた時、平田オリザさんが講演に来られ、職員が私の考えを伝えると、「正直この建物は余りセンスがよくない。だけど、城崎は好きだ。なので、ここで芸術ができれば、うまくいったら来るかもしれない」と。職員の多少の誇張も受けて、制度をつくったところ、ロコミでぱっと広がった。

さらに、平田さんも運営に万全を期すため芸術監督を引受けてくれた。

Ⅱ 寄稿 神戸秘話第24回（最終回）

『原点は六甲山の自然』

植物学者 岡村 はた』

（一社）兵庫県建築会 会長 瀬戸本 淳

これまで神戸高校とそのルーツとなった学校に関係した人物について綴ってきたが、神戸高校の兄弟校ともいえる兵庫高校の系譜にも優秀な人物は多い。本来ならそのあたりも書きたいのだが、今回は最終回なので、両校とゆかりの深い女性植物学者、岡村はたを紹介しよう。

大正12年（1923）に岡村家の次女として御影で誕生。生家は嘉納治五郎の道場の南側にあったという。3歳の頃から登山好きの父に連れられ六甲山に登り、小学校入学前後に引越してきた家の番地は当時の六甲の最高峰の標高と同じ932の1で、庭には六甲山の山砂*でロックガーデンをつくったというから面白い。

小学校の頃には気圧計で標高を測り、草花の写生を覚え、学校から帰ると玄関に置いてあった捕虫網を持って虫取りに出かけていた。県立第一神戸女学校（現在の神戸高校）に入る頃になると一人で六甲の谷という谷を歩き回るようになる。蝶やトンボを「彼女」、甲虫やハチを「彼」とよんで「わたしの昆虫記」を書く一風変わった生徒だったようで、昭和13年（1938）の阪神大水害時の際はその後、リュックにノミと弁当箱を入れて岩石採集に行き、水晶を拾ったというから逞しい。自由な校風の中で、大好きな昆虫採集や自然探索に打ち込んだ。やがて奈良女子高等師範学校（現在の奈良女子大）へ。勉強熱は高まる一方で、父の趣味とも合っていたため読みたい専門書もすべて入手でき、採取会にも積極的に参加して充実の日々を送る。卒業後は兵庫県立第四高等女学校へ就職、戦時中に教師となった。

ところが昭和20年（1945）6月5日、自宅が空襲で全焼し、コツコツ採集してきた標本、小学校4年生から書きためてきた観察記などすべてが灰になってしまう。さらに追い打ちをかけるように同年9月、研究の最大の理解者だった父が亡くなった。「昆虫学者を夢みていた私は死んだ」と、戦争とともに夢は消えた。

しかし、新しい時代とともに、新しい人生が待っていた。勤務先の県四が神戸二中と合併して兵庫高校となり、竹類の生態研究の第一人者、室井ひろしと同期に。植物研究へ重心を移した岡村はスケッチなどで室井の研究を支え、『学校の経営と校外指導』『図解植物観察事典』など室井との共著を多く世に出した。

教育現場で日々奮闘する中でも岡村の向学心は衰えることはなく、週1度京都大学へ講義を聴きに出向き、斑入り植物の研究に没頭。なんと約千種の斑入り植物を対象にその成因を分類し、その成果を博士論文にまとめ京大に提出、昭和51年（1976）に農学博士となった。

兵庫高校退職後には聖和大学（現在の関西学院大学教育学部）教授として教鞭を執った。また、正倉院宝物竹材材質調査や兵庫県立人と自然の博物館の設立に関わるなど、多方面で活躍、私生活では弟妹の親代わりとなり、第2人を医学博士にまで育て上げた。

何事にも一生懸命。大好きな生物研究に邁進し、奮励努力で大きな果実を実らせた。岡村のそんな実直な生き方はまさに、六甲に根を下ろす大樹のようだ。

「神戸秘話」を長らくご覧いただきありがとうございました。応援して下さいました多くの方々に感謝いたします。

*現在は瀬戸内海国立公園に指定されているため、六甲山の土砂採取は禁止されている

※敬称略

※岡村はた『教職五十年精一杯』、室井綽・岡村はた『竹とささ』、岡村はた、橋本光政、室井綽ほか『図解植物観察事典』などを参考にしました



岡村はた

植物学者

大正12年（1923）神戸市生まれ。

県立第一神戸女学校（現在の神戸高校）、奈良女子高等師範学校（現在の奈良女子大）卒。

兵庫高校の教師に長年勤めながら研究を重ね、昭和51年（1976）に京都大学より農学の博士号を取得。

昭和56年（1981）より聖和大学（現在の関西学院大学教育学部）教授。専門分野は竹・笹の形態や生態、植物の斑入り。『図解植物観察事典』や『竹とささ』、『ほんとの植物観察』（いずれも共著）など、植物研究の指針となる著書多数。

平成23年（2011）没。

月刊神戸っ子 2018年12月号から転載しました。

Ⅲ 見学リポート

ぶらりまち歩き 『西国街道と兵庫津』

(5) 七宮神社～柳原惣門、西出町

㈱岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏、事務局

七宮神社から西南に辿ると程なく兵庫県政150周年記念協賛事業の講演会を開催した旧岡方倶楽部へ、更に200mで札場の辻に至る。

この兵庫津周辺の史跡については、会報380号(平成29年6月)で詳細が報告されており、ご面倒ながら次のホームページでご覧いただきたい。

《建築会ホームページ》

http://www.kenchikukai.or.jp/infomation.php?date=2017060101_2



札場の辻：左方向へ
柳原惣門

この札場の辻を直角に曲がって北西に進み、国道2号線を渡れば柳原蛭子神社の辺りにあった柳原惣門である。須磨方面から来れば、柳原蛭子神社と向いの福海寺(大

黒寺)の位置あたりで兵庫津に入ることになる。兵庫城は、兵庫津のまち全体を城下町とし、その外郭を土塁(都賀の塘)で護り、その曲輪の門として“惣門”と称されたと推測されている。



兵庫津への道：左 福海寺(大黒寺)、右 蛭子神社と柳原惣門復元図

三宮神社からぶらりまち歩きを愉しみ、ようよう第5回にして兵庫津の西の入り口へ辿り着いた。が、事実は湊川神社の見学も入れて1日で兵庫津に入り、そこから少し回り道をして西出町、東出町を見学。そこで日没を迎えたので、夜のお愉し

みの宇治川の焼き肉店へ急ぎ参った次第。

ただ、やはり最後まで仕上げに拘り、七宮神社からは別の日にぶらまちし、本報告とさせていただいた。最後にその物好きの四名をご参考までに掲げさせていただく。

このぶらまち1日目を締めくくる西出、東出町の様子を岡氏の名調子により報告させていただくこととする。

新開地本通りを突っ切って国道2号線を交差して南下すると、いつか見た風景が出現する。どこか懐かしい昭和がそこかしこに五感で感じられる。そこに現れたのは「ヤマザキパン」の特約店看板。一瞬、目を疑ったがどっこい生きてる(失礼)現役の店舗である。ヤマザキ、第一、フジ、シキシマ、神戸屋、おかの等パン・製菓メーカーはコンビニなかりし時代、通学路の個人商店を主たる販路としていたのでこうした突き出し看板は珍しくなかったが、商習慣の変わった現代では珍しい。

閑話休題。

今回の見学ツアーでのアンカーをつとめる案内人・六條さんこそがこのお店の店主でもある。閉店前(?)滑り込みで、松尾稲荷神社へ参拝し、ここにも鎮座されるビリケンさんを拝んでいくことになる。間口からは想像できないが、鰻の寝床のように神社の奥行きは深い。大正初期に作られたビリケン像が祀られている。

このビリケン像は木製で、右手に打ち出の小槌、左手に宝珠の珠を持って米俵の上に腰掛けており、従来の大黒天と混ざった和洋折衷の像で、当時は「ジャパンビリケン」と呼ばれ人気を博した。現在、松尾稲荷神社では本来の招福の御利益に加え、病氣平癒、学業向上の御利益で信仰を集めている。そもそもビリケンさん自体が縁起物として商家を中心に大正期に流行したが・・・



松尾稲荷神社と
ビリケンさん

ビリという語呂が、最下位を暗示するようで好ましくないことからピリケンさんと呼称されるこ

ともあるという。余談だがダットサンとてそもそもは3人の創業者 田 (D) 青山 (A) 竹内 (T) の頭文字に息子の SON であったが「損」につながるから「太陽」= SUN に改めたゲン担ぎにどこか似ている。



六條さんによる兵庫津説明とお好み焼きひかり



中内功氏生家跡（車の停まっている空地）

まさに脱兎のごとく駆け足で六條さんに説明を頂くが、時間はすでにおおしていた。そこで、ダイエー創業者・中内功氏の生家跡を拝見する。現在、流通科学大学内に復元されている建物が存在した場所は空き地となっている。工員・船員であふれかえる下町で日々、人々の健康に欠かせない存在だったのだろうと往時をしのぶことができる。

六條さんの有難いお話を聞いている間、稲荷市場のお好み焼き店「ひかり」から香しきソースのにおいが立ち込め、空腹を辛抱するのに往生した。市場の店舗数の変遷から察して（アーケードは意外に近年まで残されていたが）、往年は川重とその関係の造船所の職員・労働者で賑わった街であったことがうかがい知れる。

そして、郷愁を誘う香りに魅せられ、これも後日にタップリと堪能したひかりのお好み焼きレポートは次回にお届けしたい。

ぶらまち参加メンバー

石田邦夫顧問、大木弘恵副会長、岡澄彦理事、谷純夫専務理事、高松良和氏（案内・歴史ソムリエ）

IV 花だより：ヤマモモ、ヤブカンゾウ 国営明石海峡公園神戸地区・あいな里山公園 （神戸市北区山田町藍那字田代）

この7月から安全を考慮し電車通勤となり、中刷り広告がいろんな地域情報を提供してくれるのが楽しい。早速に“やまももまつり2019 7月6日・7日”が目に入り、場所は「あいな里山公園（明石海峡公園神戸地区）」の。この公園については、オープンを記念して平成28年6月の月例会で兵庫県園芸公園協会・橘担当役員（当時）から概要報告をいただき7月会報に掲載している。

<会報第369号（平成28年7月）>

http://www.kenchikukai.or.jp/infomation.php?date=2016070101_2

そして、取材に現地視察に訪れ、月例会報告と併せて公園の様子をレポートしたが、その時に見かけたヤマモモの実の立派なことに驚かされている。その“やまもも摘み”が体験できる催しとあって、何はさておき現地視察をすることとした。

ヤマモモは神戸では結構古くから街路樹として植えられているが、特に今の若い世代にはこれが食べられるということをあまり知らないように思われる。私が子供の頃は、山に入って採る（盗る？）のはいいが、シャツを赤く染めて母親によく叱られたものである。ただ、街路樹は消毒がされるだろうから、食するにはお薦めはできない。また粒が小さいから硬い（それでも食べようとしたから知っている）。昔の山ではそんなこともないし、何よりもあの甘さが魅力的で、この時期が待ち遠しかったものである。



そのようなききつで、7月7日の日曜日に長袖シャツ、長ズボン、帽子、軍手、タオル…等々指定の服装に身を包み、孫を伴い久しぶり

に訪問をした。以前はしあわせの村ゲートから馬事公苑を抜け阪神高速方面へ向かい、駐車場からは延々と上り坂を歩いて古民家施設のある場所まで向かったものだが、今は県道小部明石線の藍那側から進入でき、施設まで直接行くことができる。

そして、収穫時期となったヤマモモの木に向かうと、おじさんが二人張り付き、一人はカギのついた竹ざおで下から、もう一人は木に登って上から揺すってくれ、我々はシートの上に落ちてきた

実を採集する、とまあ楽な摘み取り体験である。ほとんどが子供とお母さんだからそれも仕方がないことだが。100 円で購入した手のひらに載るカップ 1 杯ではあっという間に採集はおしまい。それでも、落ちてきた実で服も靴も赤く染まり、昔の記憶が蘇ってきた。



ヤマモモの採集

この地区では、本当は竹かごを首にぶら下げ、木に登って一つずつ丁寧に摘むそうだ。

それから 2 週間、我が家の朝食には 5～6 粒のやまももが添えられた。勿論食するのは私一人。昔はもっと甘かったように思うが、食環境の違いかも知れない。それでも独特の甘酸っぱさを懐かしく一人しゃぶっていた。

神戸市の西北部では昔からヤマモモが多く自生しており、この藍那地域ではヤスザイ、ズイコウシラモモなどの品種を自生木に接木して栽培されてきた。実がなるのは雌木で、3 月～4 月に花が咲き雄木の花粉を風が運ぶ風媒花である。

(“やまももまつり” チラシより)

他にも地区の方が総出で竹細工の指導、やまももシロップの試飲、水辺の生き物展示等々もりだくさんの催しがあり、毎年実施されているようなので、来年は子供、孫さんを連れて田舎の原風景とともにのんびり楽しむのも一興では。

表紙 ヤブカンゾウ：キスゲ亜科、別名ワスレグサ
本州以南の野原や藪に群生する。若葉やつばみは食用になる。



しらべし
白拍子の家と棚田

V お知らせ

◎ 会員の異動 (敬称略)

正会員の異動 (6 月 13 日付)

(株)明和工務店

新代表取締役社長 松本 章

前代表取締役社長 和田好勝 顧問就任

新規特別会員 (7 月 11 日付)

兵庫県企画県民部参事 (整備担当)

柏樹容子

同部 新庁舎整備室新庁舎整備課長

菅 雄二

◎ 行事予定

1 9 月月例会 (第 477 回)

日 程 令和元年 9 月 12 日 (木) 12 時～

テーマ 『新興国における日本企業の活動状況
～ミャンマーの事例～』

講 師 山口 隆英氏

・兵庫県立大学国際商経学部長

ご案内中です。ご参加お待ちしております。

2 10 月月例会 (第 478 回)

日 程 令和元年 10 月 10 日 (木) 12 時～

テーマ 『マレーシアのインフラ整備事情
～サバ州での JICA シニアボランティア
体験を通じて～』

講 師 井上 俊廣氏

元兵庫県県土整備部長

兵庫県まちづくり技術センター理事長

8 月下旬のご案内予定です。

◎ 事務局だより

○平成 29 年 8 月から 2 年間に亘り連載をしてきました瀬戸本会長による“神戸秘話”は本号をもって最終回となります。これは、月間神戸っ子に連載 (2017 年 1 月～2018 年 12 月) されたものを、筆者及び神戸っ子のご好意により本会報への登載が了承されたものです。名門神戸一中、神戸第 1 高女、神戸高校が輩出した偉人をご紹介いただき、文化、科学等多分野における活躍、生立ちを知ることができました。また、これだけの多様多彩な人物の文献を調べ、月々に執筆することのご努力、能力に敬意を表する次第です。まだまだ、紹介しきれないところと思いますが、折に触れ当会報へのご寄稿をいただければと思います。長期に亘りありがとうございました。

○遅い梅雨明けと台風も去りいよいよ盛夏の季節がやってきました。今年のこれまでの傾向はエルニーニョ現象のようで、ならば冷夏、台風も少ない？との傾向になるようですが、果たして……。いずれにしても水分補給で、熱中症にはご注意ください。

事務局 : 谷 純夫、石井滝実子

電 話 : 078-996-2851

FAX : 078-996-2852

Email : archit-k@axel.ocn.ne.jp

広報コーナー：兵庫県住宅再建共済制度

『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。
 兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.jutakusaiken.jp/>

安心をカタチに 兵庫県住宅再建 共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」



今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大 80%！
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟！

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
 住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ！**

県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に		県内の住宅（借家含む）にお住まいの方に
住宅再建共済	一部損壊特約	家財再建共済
年額5,000円で 再建、補修時に 最大600万円 給付！	プラス 年額500円で 補修時に 25万円 給付！	単独加入 年額1,500円で 住宅とセット加入の場合 年額1,000円で 購入・修復時に 最大50万円 給付！
※半壊（損害割合 20%）以上	※損害割合10%以上20%未満	※床上浸水・半壊以上

※ 住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「リ災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)
 FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosaikikln@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済

検索

★加入申込書はダウンロードできます★



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局（簡易郵便局除く）にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です！